

衣類の収納に関する研究（その2）

三世代家族世帯における老人の衣類の収納のしかたの分析

大阪樟蔭女大 ○一棟宏子 大阪樟蔭女大 本田 節
大阪市大生活科学 中根芳一 三重大教育 中島喜代子

目的； 衣類の収納のしかたは、世帯の家族構成と住宅の条件、すなわち住み方によってかなり大きく変わる。また、衣類全体では大きなボリュームになるが、それらは、日常よく使う洋服類、下着類のほか、使用頻度が低い和服や季節外衣類があり、さらに、もう着ることはないが捨てるのが惜しいためにとってある古着など、使用頻度や必要度が異なったものを含んでいる。しかも、その収納場所はある程度の自由度があるため、ほかのモノの置き場の影響を受けやすい。「どこにでも収納できる」ことが、かえって衣類の収納場所の混乱と分散傾向に拍車をかけているといえる。そこで、衣類の収納のしかたを分析するためには、住み方との関連の中で有機的に分析する必要があるが、本報告は、三世代家族世帯における老人の衣類についてケーススタディを行い、衣類の収納のしかたの分析方法について検討する。

方法； 前報と同じ調査対象であるが、そのうち本報がとりあげたのは、三世代家族世帯の29件（13.5%）、同居している老人の内訳は、祖父母夫婦が8件、祖父のみ3件、祖母のみ18件であった。住宅の平面図に家具配置を記入し、そこに各家族ごとにそれぞれの衣類を色わけして、〈誰の〉〈どんな衣類が〉〈どこに〉どんな状態で収納されているかが一目でわかるような衣類の収納マップを作成した。本報は衣類の収納マップについて分析したものである。

調査結果および考察； ①祖父母の共用寝室は5件であり、個室は14件、他の家族との共用寝室は3件であった。②収納場所の分散傾向ついてみると、自室のみに収まっているのは祖母の衣類に多くみられるが、とくに日常の洋服類が自室に収納されているケースが多い。③祖父母寝室に他の家族の衣類が収納されるケースは少ないが、個室には他の家族の衣類がよく収納されている。